



Alice Sara Ott

アリス＝紗良・オット



ドイツ人と日本人の両親をもつピアニスト、アリス＝紗良・オットは、5年足らずのうちに世界各地の主要なコンサート・ホールで演奏し、批評家の絶賛を博すとともに、今日最も刺激的な音楽家の一人として確固たる地位を築いた。

近年は、フランクフルト放送交響楽団(パーヴォ・ヤルヴィ)、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団(ロリン・マゼール)、フィルハーモニア管弦楽団(グラディー・ミル・アシュケナージ)、フィンランド放送交響楽団(ハンヌ・リントウ)、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団(ワシーリ・ペトレンコ)、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団(ジョン・ミュンフン)などと共演、2014-15シーズンには、シカゴ交響楽団(パブロ・ヘラス＝カサド)、インディアナポリス交響楽団(クシシュトフ・ウルバンスキ)、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団(トーマス・センデゴ)との初共演が予定されている。また、ロンドン交響楽団(ジャンドレア・ノセダ)、バイエルン放送交響楽団(エサ＝ペッカ・サロネン)、NHK交響楽団(ジョン・ストウールゴールズ)などとも再共演をする。

2008年よりドイツ・グラモフォンと専属契約を結び、リストの超絶技巧練習曲集、ショパンのワルツ全曲を収めたアルバムその他、ヘンゲルブロック指揮/ミュンヘン・フィルとの共演によるチャイコフスキーとリストのピアノ協奏曲第1番、ムソルグスキー《展覧会の絵》(白夜祭ライブ録音)は全世界でリリースされた。

2014年には初のピアノ・デュオ・プロジェクトとして、フランチェスコ・トリスターノとバレエ・リュスをテーマとしたアルバム「スキヤンダル」が全世界でリリースされ、2014年6月より日本、韓国、オーストラリアでのツアーを成功に収め、2014/2015シーズンにはシュトゥットガルト、ルクセンブルク、ベルリン、ロンドンなどのヨーロッパ主要都市でのツアーを予定している。

2014年1月より「音楽の友」にて、エッセイ「アリス＝紗良・オット ピアニスト 世界を巡る」を連載中。